

看護部長通信 9月号

暑い夏が過ぎて、秋を迎えています。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は、高温、豪雨、逆走台風などの異常な天候が続き、野菜の高騰が続いています。プチ主婦の私にとっては、数少ないレシピの中で毎週のように餃子を作っていますが、キャベツと白菜の高値が気になっています。自宅の近くに直売所があり、休日になると商品がたくさん並ぶ朝早くから出かけ、新鮮で手ごろな価格の野菜を購入するのが、休日のルーティンになっています。

また、私の父は82歳ですが、耕運機で畑を耕して季節の野菜を作っています。自分ではボケ防止と足腰が効かなくなるといけんけえと我が家の近くの畑で農作業に汗を流しています。私の休みの日には、我が家で一緒にお茶を飲みながらいろんな話をします。高齢の父を見て、まだまだ元気で頑張っているなあと思いながら週末を送っています。

さて、私が当院へ就職して6ヶ月目に突入しました。同じく看護師の新入職員も夜勤業務が入り段々と責任のある業務内容へと進んでいます。一般病棟と療養病棟への配属となっていますが、プリセプターには新人教育についてとても熱心に指導していただいています。一般病棟の看護師からは、「今でも自分が新入職員の頃に指導を受けたことを覚えており、そのことを少しでも活かせることが出来たらと思い、新人教育に関わっています。大事に育てていきたいと思っています。」という言葉聞くことができ、病棟全体で関わっているという手応えを感じています。今年は4人の新人が入職しましたが、辞めることなく本当に頑張って先輩の教育に応えてくれています。入職当初は辞めたいと思うこともあったでしょうが、新人の皆さんの踏ん張り優しい先輩ナースの支えにより現在に至っており、感謝の気持ちで一杯です。

私は、当院の看護部を良くしたいと思って就職したわけですが、まだまだ私の力不足で自分の思うようなマネジメントが出来ていないのが、反省点の一つになっています。とにかくスタッフに対しては、常に平等かつ公平に物事を考えて進めていかなければいけないという原理原則を貫いていこうと思っています。これは、人を大切にすることにもつながると思っています。また、忘れていけないことは、最高の看護サービスを患者様へ提供していくことだと思っています。

8月最終日に接遇研修会を開催しました。職員総数157名のうち参加者は73人になりました。接遇5原則について基本的な考え方を改めて聞く機会となりました。講師の先生から、「ありがとう」の反対語は何でしょうかとの問いかけがありました。さてさて答えは「当たり前」でした。両方とも日常的によく使う言葉ですが、あまり深く考えて言葉を発することがなかったと思います。ありがとうには、あることが難しい、あり得ないこと、もしくは存在しないことがあったからありがとうになり、気づいて感謝の念を持つということでした。私の母がよく私に言ってくれた言葉もありがとうであり、人への感謝の気持ちを忘れないようにということをよく口にしていました。秋の夜長に母を思いながら若かりし日のあの頃に戻りたいものです。



平成30年9月4日 看護部長 伊藤 節美